京都府立医科大学附属北部医療センター誌
第７巻の発刊にあたって

平成25年４月１日に京都府立医科大学附属北部医療センターとなって８年が過ぎようとしています。この間に元号も“令和”に変わりました。また、この巻頭言を書いている令和３年２月末は「緊急事態宣言」が京都府でも継続されています。未曾有のCOVID-19パンデミックが抗ウイルス・ワクチンの普及で鎮静化できるのか、世界中が注目しています。

そのような中、今回、「京都府立医科大学附属北部医療センター誌」第７巻が発刊される運びとなりました。京都府立医科大学の附属病院としての北部医療センターの役割として、診療・教育に加えて、“研究の充実”があります。大学附属病院の教員として重要なことは、自らが学んだことを学会発表や論文として公表していくことです。各部門での体制は不十分な面があり、多忙な日常診療の中で論文を書くことは多大な努力を要しますが、京都府立医科大学の各講座・部門と連携して、北部医療センターの診療および研究内容をより一層充実させ、「京都府立医科大学附属北部医療センター誌」に目に見える形で反映させて行きたいと考えております。

第７巻には、総説１編、原著２編、症例報告８編、看護研究１編、看護実践報告１編、研修医振り返り、CPC報告など充実した内容となっております。総説は、循環器内科藤田 博先生に「冠循環と冠血流予備費」について書いて頂きました。原著および症例報告は、いずれも当院で経験されたことに基づいて書かれたものです。原著論文では、大腿骨近位部骨折患者の歩行能力に関する研究（整形外科大久保先生）、高齢者子宮体がんの治療に関する研究（産婦人科山下先生）の２編でいずれも当院の特色を活かした内容となっています。初期研修医による３編を含む９編の症例報告も読み応えのある内容となっています。

看護研究は、当院における病棟内転室の実態調査に関する研究内容（永濱看護師）です。看護実践報告は患者・家族の思いを支える退院支援に関する研究（池田看護師長）です。いずれも病棟での実践に基づいた研究内容となっています。

当院での研修医生活を振り返った初期研修医の「研修医生活」も楽しみです。

最後になりましたが、ご執筆頂いた皆様、ご多忙な中、第７巻の発行に向けご尽力頂いた編集委員の皆様に心より感謝申し上げます。

令和３年３月

附属北部医療センター　病院長　　中　川　正　法